

ファイナンス教育の研究

～時代の変化に対応した生きる力の育成をめざして～

沖縄県立名護商業高等学校教諭 比嘉 雄一

1. はじめに

本校は、沖縄本島那覇市より北へ約 60km、東側に太平洋、西側に東シナ海を眺め、面積の約 60% が山林という自然環境に恵まれた、北部地域の玄関口として、交通・政治・経済・文化の中心である人口 56,000 名余の名護市の中心に位置し、商業科・経理科・情報処理科を有する、創立 22 周年を迎えた単独商業高校である。

2. 本校の沿革

昭和 56 年 沖縄県立名護商業高等学校発足
 昭和 57 年 本校開校（商業科 2、経理科 1、情報処理科 1）
 昭和 60 年 定時制課程廃止
 平成 13 年 創立 20 周年
 平成 15 年 新学科ファイナンス科設置決定
 平成 16 年 ファイナンス科スタート

3. 教育目標

教育基本法及び学校教育法に則り、人間尊重の精神を基盤として、体・徳・知の調和のある人格の形成をめざすとともに、高等普通教育並びに商業に関する専門教育を施し、国際的視野に立つ民主社会の有為な形成者として、未来を拓く心身ともに健康で豊かな人間を育成する。

4. 学科の目標

本校は、各学年商業科 2 クラス、経理科 1 クラス、情報処理科 1 クラスを設置しており、学科の目標として、

- 商業科……商業に関する各分野についての知識と技術を習得させ、経営活動に適切に対応するための能力と態度を育てる。
- 経理科……主として、簿記会計に関する分野についての知識と技術を習得させ、経理に関する活動に適切に対応するための能力と態度を育てる。

○情報処理科……

主として、情報処理に関する分野についての知識と技術を習得させ、情報処理に関する活動に適切に対応する為の能力と態度を育てる。

を掲げ、地域社会に貢献できる人材の育成をめざし、日々教育活動を行っているが、平成 16 年度より経理科をファイナンス科へ学科改編し、新学科をスタートさせる事になった。

5. 概要

(1) 在籍生徒数：() 内の数値は学級数

学科	1 年	2 年	3 年	合計
商業科	74 (2)	82 (2)	76 (2)	232 (6)
経理科	37 (1)	40 (1)	33 (1)	110 (3)
情報処理科	41 (1)	39 (1)	38 (1)	118 (3)
計	152 (4)	161 (4)	147 (4)	460 (12)

(2) 進路状況

年度	就職	進学	未定	合計
平成 12 年度	47	73	30	150
平成 13 年度	39	68	31	138
平成 14 年度	34	80	43	157

(3) 就職状況

年度	県内外	建設業	製造業	運輸・通信業	卸売・小売・飲食業	金融・保険業	サービス業	公務員・その他	合計
平成十二年度	内	0	2	7	6	3	14	2	34
	外	0	0	1	5	0	7	0	13
	計	0	2	8	11	3	21	2	47
平成十三年度	内	2	1	0	3	1	17	1	25
	外	1	2	1	3	0	5	0	12
	計	3	3	1	6	1	22	1	37
平成十四年度	内	0	0	0	11	0	14	0	25
	外	0	0	0	3	0	6	0	9
	計	0	0	0	14	0	20	0	34



(4) 進学状況

年度	区分	県内県外別		県内		県外		合 計	
		男	女	男	女	男	女	男	女
平成十一年度	四年制大学	13	7	1	1	14	8	22	
	短期大学	0	1	0	0	0	1	1	
	専修・各種学校等	9	29	2	10	11	39	50	
	公共職業訓練施設等	0	0	0	0	0	0	0	
	計	22	37	3	11	25	48	73	
平成十二年度	四年制大学	5	4	2	1	7	5	12	
	短期大学	0	0	0	3	0	3	3	
	専修・各種学校等	17	25	4	7	21	32	53	
	公共職業訓練施設等	0	0	0	0	0	0	0	
	計	22	29	6	11	28	40	68	
平成十四年度	四年制大学	4	3	1	0	5	3	8	
	短期大学	0	3	0	2	0	5	5	
	専修・各種学校等	18	31	2	16	20	47	67	
	公共職業訓練施設等	0	0	0	0	0	0	0	
	計	22	37	3	18	25	55	80	

6. ファイナンス教育の必要性

(1) 今なぜファイナンス教育が必要なのか？

今、「生きる力」が求められている。生きる力にはいろいろな要素が含まれると思うが、ここでは最低限人間らしく生きるために必要な「衣・食・住」を獲得する力と考える。それらを獲得するためには、お金が必要となる。お金とは、物々交換の時代と言うとともモノであった。このモノは動植物であり、水、森林、石油など貴重な生命・資源であり、これらすべては有限なものである。ファイナンス教育は決して、お金儲けを教えようとするものではない。現在は、モノがあふれ、食べることに困ることもなく、モノがないということを想像することができない時代である。

このような時代だからこそ、モノがあるということのありがたみとお金の意味を深く考えていかなければならないと思ひ立ち、生きるためには謙虚にならざるを得ないということを伝え、生きる厳しさをわきまえた、人間愛溢れる経済的人間（ホモ・エコノミクス）を輩出することをその目的とするのである。

(2) なぜ本校にファイナンス教育を取り入れるのか？

本校のある名護市は、平成14年4月1日、日本で唯一の金融業務特別地区いわゆる金融特区として指定をうけた。金融特区の構想の内容は、銀行、証券、保険といった金融業務または金融業に付随する業務に対するインセンティブ、優遇税制があり、企業進出、雇用の拡大が期待されている。しかし、現在企業が名護に進出する際、そこで働く人材の確保が課題として挙げられており、地域からの人材の育成が急務となっている。そこで地域社会に貢献でき

る人材の育成を目指すという観点より、本校も商業高校としての役割を考え、ファイナンス関連科目についての研究を行い、学科設置について検討してきた。

7. 新学科「ファイナンス科」について

(1) 学科の目標

ファイナンスについて系統的に学習を行い、生徒が自ら学び判断する自己責任能力を養い、社会の変化に対応した、生きる力の育成をめざす。

(2) 学科の特色

- ファイナンシャルプランニング（FP）技能士検定取得への取り組み
- インターンシップ（地域企業における就業体験）
- セミナー（専門的な知識を有した外部講師による講義）

(3) 平成16年度教育課程

教科	科目	学 科	商業科			ファイナンス科			情報処理科			教科の 単位数	備考		
		標準単位	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年				
国語	国語総合	4	3			2			2			2	8	3年☆印 選択必修	
	現代文	4		3				3			3				
地歴	世界史A	2		2				2			2		4		3年☆印 選択必修
	地理A	2	2			2			2						
公民	現代社会	2			3			3				3	3		
数学	数学Ⅰ	3	4				4			4			6～8	3年△印 選択必修	
	数学Ⅱ	4			△2			△2				★2			
理科	数 学 A	2		2			2			2			4		3年△印 選択必修
	理科総合A	2			2			2			2				
保健	理科総合B	2		2			2			2			9		
	体育	7～8	2	2	3	2	2	3	2	2	3				
芸術	保健 健	2	1	1			1	1		1	1		2～4	工業Ⅰは 学校間 連携科目	
	音 楽 I	2	2			2			2						
外国語	音 楽 II	2			△2			△2				★2	9～14		工業Ⅰは 学校間 連携科目
	工 芸 I	2			△2			△2				★2			
家庭情報	書 道 I	2			△2			△2				★2	49～54		
	O C I	2			2			2			2				
普通教科・科目合計	英 語 I	3	3			3			3				33～38	3年★印 選択必修	
	英 語 II	4		4	△2		4	△2		4	☆2				
普通教科・科目合計	中 国 語	2～3			▲3			△2			★2		33～38		3年★印 選択必修
	家庭総合	4		2	2		2	2		2	2	4			
普通教科・科目合計	情 報 A	2											33～38		
	ビジネス基礎	2～4	3			2			3						
普通教科・科目合計	課題研究	2～4			4			4			4		33～38	3年★印 選択必修	
	総合実践	2～4			3						3				
普通教科・科目合計	商品と流通	2～4		3									33～38		3年★印 選択必修
	商業技術	2～4		3							★2				
普通教科・科目合計	マーケティング	2～4			△2			2					33～38		
	経済活動と法	2～4			▲3						2				
普通教科・科目合計	英語実務	2～4						2					33～38	3年★印 選択必修	
	簿 記	2～4	5	3		5			3						
普通教科・科目合計	会 計	2～4			3		3			3	☆2		33～38		3年★印 選択必修
	原 価 計 算	2～4			▲3		2			2					
普通教科・科目合計	会計実務	2～4											33～38		
	情報処理	2～4	4			2			6						
普通教科・科目合計	ビジネス情報	2～4		2						3			33～38	3年★印 選択必修	
	文書デザイン	2～4						△2			2				
普通教科・科目合計	プログラミング	2～4								3	☆2		33～38		3年★印 選択必修
	「ファイナンス基礎」	3				3									
普通教科・科目合計	「ファイナンス基礎Ⅱ」	4					4						33～38		
	「ライブラニング」	2						2							
普通教科・科目合計	株 式	2						2					33～38	3年★印 選択必修	
	「ファイナンシャル・リテラシー」	3						3							
専門教科・科目合計		12	11	10～15	12	11	13～15	12	11	11～15	33～38				
教科・科目合計		29	29	29	29	29	29	29	29	29	87				
総合的な学習の時間												課題研究で代替			
特別活動		ホーム・ルーム活動	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	30		
合 計			30	30	30	30	30	30	30	30	90				

※「」はファイナンス科学科設定科目

(4) 学校設定科目の説明

1年	ファイナンス基礎Ⅰ	(3単位)
2年	ファイナンス基礎Ⅱ	(4単位)
	株式	(2単位)
3年	ライフプランニング	(2単位)
	ファイナンスシミュレーション	(3単位)
	小計	14単位
	課題研究F Pクラス	(4単位) ※全科選択可能
	計	18単位

既存商業科目プラス上記18単位ファイナンス関連科目を設定し、学科の目標達成をめざす。

○**ファイナンス基礎Ⅰ** ファイナンスに関する入門的な科目として1学年において学習する。

テキスト	「金融知力講座グランドステージ」 (金融知力普及協会) Ⅰ 「金融知力の必要性」編 第1部 「なぜ今、金融知力が必要なのか」 第2部 「くらしに身近な経済知識」 第3部 「くらしに役立つ経済知識」 Ⅱ 「ライフプランと資金運用計画」編 第1部 「ライフプランニング・ リタイアメントプランニング(上)」 第2部 「ライフプランニング・ リタイアメントプランニング(下)」 第3部 「金融消費者の知恵」 Ⅲ 「資産運用の基礎知識」編 第1部 「使わないお金の活かし方」 第2部 「金融商品を知る」 第3部 「賢いお金の増やし方」
検 定	金融知力3級検定試験
講 話	ファイナンスについて…1年生の段階の内容 講師：日本FP協会、金融知力普及協会(3～5H)
インターシップ	事前・事後指導(4H)程度

○**ファイナンス基礎Ⅱ** ファイナンス基礎Ⅰの次段階の科目として2年生において学習する。

テキスト	「金融知力講座ミドルステージ」 (金融知力普及協会) Ⅰ 「経済と金融市場」編 第1部 「経済の全体の動き」 第2部 「金融市場とのかかわり」 第3部 「経済ニュースを読み解く」 Ⅱ 「金融商品詳細」編 第1部 「貯蓄商品・債権」 第2部 「株式・投資信託」 第3部 「外貨建商品・保険商品・派生商品」 Ⅲ 「資産運用実践」編 第1部 「リスクの低減方法」 第2部 「資産運用のプロセスと資産配分」 第3部 「商品選択」
検 定	金融知力2級検定試験
講 話	ファイナンスについて…2年生の段階の内容 講師：日本FP協会、金融知力普及協会(3～5H)
インターシップ	事前・事後指導(4H)程度

○**株式** 株式学習ゲームへ参加し、模擬取引を通して新聞の株式欄の読み方や株価に影響をもたらす事項の研究等、株式売買の基礎を学習する。

○**ライフプランニング** 個々のキャッシュフロー表(資金収支計画表)の作成・分析方法の学習を行い、具体的に自身の将来設計について考える事とおし、進路決定等に役立てる。

○**ファイナンスシミュレーション** 2年で学ぶ「株式」を基礎とし、実践的に生徒が自ら集めた情報を頼りに銘柄を選択し、ポートフォリオ学習を行う。

○**課題研究「F P」ファイナンスプランナー**
課題研究の選択クラスとして設定。ファイナンスプランニングの技法を学習し、個々のライフプランの作成、提案書の作成等の指導を行い、検定への取り組みも行う。

※ファイナンスプランニング技能士検定取得への取り組みについて、ファイナンス科については1年時より課外講座を実施し、上位級取得を推進していく。

※商業科・情報処理科の生徒も選択可能とする。

(5) その他

○**インターンシップ** 地域社会や企業における就業体験を通し、生徒の興味関心を高めることを目標とし、1学年より実施する。

学年	事前指導	内 容
1学年	ファイナンス基礎Ⅰ	地域に社会における奉仕活動
2学年	ファイナンス基礎Ⅱ	金融機関等における就業体験
3学年	課題研究	金融機関等における就業体験

各学年インターンシップ実施計画

※インターンシップ対象企業

銀行、郵便局、証券、生命・損害保険、役所等

○セミナー ファイナンス基礎Ⅰ、ファイナンス基礎Ⅱ、ライフプランニング等において、各分野の専門的な知識を持つ方々へ講師を依頼し、実践的・体験的な要素を多く含んだ講義を通し、生徒の興味・関心を高める。

分 野	講 師	内 容
金融全般	金融知力普及協会	金融全般
FP	日本FP協会	FPとは
証券	証券広報センター	株式について等
年金	社会保険事務所	公的年金制について
銀行	地元企業	銀行業務について
郵便貯金・保険	郵政管理事務所	郵政に関して
生命保険	地元企業	保険業務について
損害保険	地元企業	保険業務について
税金	税務署	税について
外国為替	地元企業	外国為替業務等

8. 今後の課題と展望

(1) 指導者の育成

今後の課題として、教員の資格奨励があげられる。ファイナンシャルプランニング技能士や、金融知力検定を積極的に奨励していく。平成14年5月に職員1名がAFP・ファイナンシャルプランニング技能士2級に合格しており、今後も他の職員が受験を予定している。また金融知力普及協会主催の金融インストラクター養成講座等にも職員を派遣する予定である。

今後学科を発展させていくためにも研修制度を確立することが必要であり、民間・NPOの研修に参加し、職員のスキルアップを図りたいと考えている。

(2) パートナースhip・協力体制の確立

今後ファイナンス教育を推進するにあたり、職員による指導はもちろんの事、実社会の現状や、生きた声を取り入れていく為にも、市・企業・NPO・地域・保護者・大学といった、学校の外の世界にアンテナを張って、積極的に学部との協力体制をとっていくこと、つまりコーディネートしていくことを大切に、ファイナンス教育を充実させていきたい。

(3) 広報活動

地域の中学生や父兄にアンケートを行った結果、学科の設置や必要性についてはある程度理解されているものの、学科の特徴や内容等はまだまだPR不足であり、今後学校ホームページ等を活用し、説明の機会を多く設定し広報活動に力を入れていきたい。

(4) 指導方法の確立

“ファイナンス”という言葉や意味についてまだまだ馴染みの薄い中学生に対し、いかにして興味を引き出し、わかりやすく、かつ深く教えていくことができるか、教師にとっての最大の課題である。また変化の激しい金融環境に常に対応したファイナンス教育ができるかという点も重要なポイントである。

さらにファイナンス教育は決して“お金儲けをするためのものではない”ということを、理解してもらい、生徒に徹底していく注意方法を確立していかなければならない。

9. おわりに

本校のファイナンス科設置に向けての取り組みについては早くより、名護市やNPOである金融知力普及協会等から支援をいただきながら、研究を進めてきた。そして、魅力ある学校づくりを進めるうえで、商業高校としての特徴を十分に活かし、新学習指導要領の目標の改善観点である、「生きる力」という生涯学習の基礎的な資質の育成や、経済社会の変化に柔軟に対応できる能力の育成につながればと考え、学科改編が実現し、ファイナンス科の設置が決定したのである。

今後さらに大学との連携、および小、中で行われる金銭教育との一貫教育も視野に入れ、高校段階でのファイナンス教育を大学・社会へとつづくスタートラインとして捉え、将来のスペシャリストを育成する基盤となることを目標にさらに研究を重ねてまいりますので、本校に対しご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。